

出演者プロフィール

基調講演

一ノ瀬 友博

慶應義塾大学環境情報学部 学部長

農村計画学会 会長



千葉県出身。東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了・博士（農学）取得（1997年3月）。専門は景観計画学、景観生態学、緑地計画学。

日本学術振興会特別研究員、兵庫県立大学准教授、マンチェスター大学客員研究員、ウィーン工科大学客員研究員、ヴェネツィア大学客員教授、慶應義塾大学准教授を経て、2012年より教授、2021年より現職。

都市域の生物多様性保全を目的としたエコロジカルネットワークの機能解明に関する研究、宮城県気仙沼市の震災復興支援や地域活動支援を通じて、研究成果の社会への還元を進めている。

著書に「生態系減災 Eco-DRR-自然を賢く活かした防災・減災」（慶應義塾大学出版会）、「生態学：～基礎から保全へ～」鷺谷いづみ 共著（培風館）、「東日本大震災とEco-DRR『決定版！グリーンインフラ』」（日経BP社）、「森林環境2016／震災後5年の森・地域を考える」（森林文化協会）他。

環境省自然環境局自然環境計画課「生態系を活用した防災・減災に関する検討会」委員。

パネルディスカッション コーディネーター

荘林 幹太郎

学習院女子大学 副学長



兵庫県出身。東京大学大学院農学系研究科修士課程修了。ジョンズホプキンス大学院地理環境工学科修了（MS）。東京大学博士（農学）。専門は農業政策、農業貿易と環境。

1982年農林水産省入省、世界銀行南アジア3局、農林水産省構造改善局、OECD食料農業水産局、滋賀県農政水産部、農林水産省農村振興局等、2007年学習院女子大学教授、2017年より現職。

著書に「日本の農業環境政策—持続的な美しい農業・農村を目指して」（農林統計協会）、「世界の農業環境政策—先進諸国の実態と分析枠組みの提案」（農林統計協会）、「農業直接支払いの概念と政策設計—我が国農政の目的に応じた直接支払い政策の確立に向けて」（農林統計協会）他。

内閣官房「東日本大震災復興構想会議検討部会」専門委員などを歴任。

パネルディスカッション コメンテーター

中村 桂子

J T生命誌研究館 名誉館長
田園自然再生活動協議会会長



東京都出身。東京大学大学院生物化学修了。理学博士。生命誌の提唱者。

三菱化成生命科学研究所、早稲田大学人間科学部教授、大阪大学連携大学院教授などを歴任。

2003年～2011年3月まで(社)農村環境整備センター(現(一社)地域環境資源センター)理事長に就任。

現在、J T生命誌研究館名誉館長、田園自然再生活動協議会会長など。

著書に「自己創出する生命」(ちくま学芸文庫)、「生命科学から生命誌へ」(小学館)、「ゲノムが語る生命—新しい知の創出」(集英社新書)、「科学者が人間であること」(岩波新書)、「小さき生きものたちの国で」(青土社)他多数。

2015年からドキュメンタリー映画「水と風と生きものと 中村桂子・生命誌を紡ぐ」が全国各地で上映された。

田中 忠次

(一社)地域環境資源センター
理事長



山梨県出身。東京大学農学部農業工学科卒業。農学博士。専門は地域環境工学、社会基盤(土木・建築・防災)、地盤工学。

農業土木試験場、明治大学農学部教授、東京大学大学院農学生命科学研究科教授などを経て現職。

その他、地盤工学会理事、農業土木学会会長、ダム工学会会長などを歴任。

著書に「地盤工学における数値解析入門」共著(地盤工学会)、「地盤の三次元弾塑性有限要素解析」共著(丸善株式会社)、「Risk Assessment and Safety of Dams—Static and Dynamic Behaviors of Fill Dams」共著(Balkema)他多数。

パネリスト

遠藤 源一郎

遠藤環境農園



宮城県仙台市宮城野区出身。

仙台市役所に勤務し、主に地域活動支援の仕事に従事、八木山動物公園長を最後に退職。2013年より農業専従。

農薬や化学肥料を使わずに田んぼにメダカを入れて稲を栽培し、メダカと一緒に育てた「仙台メダカ米」として販売。

2011年の東日本大震災による津波で沿岸に位置していた町は壊滅的な被害を受けたが、町内会長(当時)として、被災直後から地域コミュニティにより町の復興及び自然再生活動に尽力。その時の様子がNHKBSで特集された。

新浜町内会庶務兼まちづくり担当、貞山運河倶楽部の副代表として、自然観察などのフットパスを開催し、震災後の沿岸部のにぎわいづくりに取り組んでいる。

仙台市若林図書館 農業連携事業で講演「沿岸部の生態系の再生を考える～仙台メダカ米プロジェクトからみえてきたもの～」

大津 愛梨

NPO 法人
田舎のヒロインズ 理事長



ドイツ生まれ東京育ち。農業、農村の価値や魅力について発信を続けている4児の母。女性農家を中心としたNPO法人田舎のヒロインズ理事長他、里山エナジー株式会社の代表取締役社長、一般社団法人GIAHS ライフ阿蘇の理事長などを兼任。

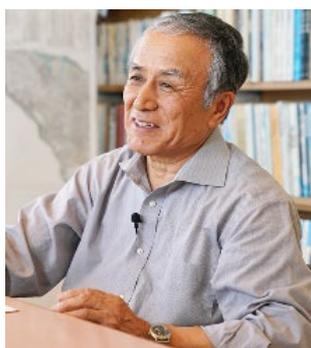
2003年より夫の郷里である熊本県南阿蘇で農業後継者として就農し、有機肥料を使った無農薬・減農薬の米を栽培し、全国の一般家庭に産直販売している。

日経ウーマンの「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」やオーライニッポン「ライフスタイル賞」の他、2017年には国連の機関（FAO）から「模範農業者賞」を受賞。

2016年に発生した熊本地震後、農村振興に携わる複数のプロジェクトを立ち上げ、そのプロジェクトは環境省の「生物多様アクション大賞」を受賞。農林水産省農業女子プロジェクトメンバー。令和3年度、食料・農業・農村審議会の委員に就任。

谷 正昭

淡路東浦ため池・里海交流保全協議会 会長



兵庫県淡路市出身。

淡路東浦ため池・里海交流保全協議会 会長、河内宮農組合長、淡路市集落営農組織連絡協議会 会長などを兼任。

近年各地で頻発する豪雨に伴い、適正に維持管理されていないため池の法面崩壊や漏水による決壊被害が懸念されるため、ため池の機能を保つ「かいぼり」を50年ぶりに復活させた。

平成22年、淡路東浦ため池・里海交流保全協議会の発足。かいぼりの普及をはじめ、ため池の大切さを伝えるイベントやため池教室の開催を通じ、地元から淡路島全域、さらに県内全域へため池保全の活動の輪を拡げている。

平成25年度田園自然再生活動コンクール 地域資源活用賞受賞。第2回インフラメンテナンス大賞農林水産大臣賞受賞。